

Global×Innovation人材育成フォーラム 最終まとめ（概要）

～未来を創造し担う若者たちが世界に羽ばたける留学環境とチャンス～（令和7年6月30日）

前文

- 日本の若者の留学の現状や大学等の外国人留学生の比率は、主要国と比較しても明らかに不十分。
- 機会の不均衡や経済的要因、制度・構造的要因、また留学の評価についての社会的認知の不足等が障壁。留学モビリティを促進することに全力を上げることが必要。
- 大学等が国際ゲートウェイとしての役割を果たし、グローバルな視点を持ち日本と世界をけん引するリーダーやイノベーション人材を輩出することを目指すなど、産学官がすべきことについて、本フォーラムの決意の具体的内容を以下に記す。

1. 日本人の海外派遣

【若者の多様な成長を支える留学機会の提供】

- 中学校や高等学校等段階から、多様な国際経験の機会に誰もがアクセスできるよう地方公共団体・学校関係者に求める。
- 留学の有無に関わらず国内にしながら国際経験が積める体制の構築を進めるべき。

【留学の機運醸成】

- 留学経験が評価されるという認知を社会全体で向上。特に産業界に、留学の成果を積極的に評価するメッセージを期待。
- 教師や保護者等の認知度を高めることでこうした認識を共有することが不可欠。
- 早期から世界の多様性等を体感できる機会として、外国人留学生・外国人教員と接する機会、姉妹都市との交流機会の活用を推奨。

【経済的支援】

- 学部学生や高校生等：できる限り多くの学生・生徒に留学に挑める環境とサポートが必要。
 - ・ 高校生等...地方・地域の状況に関わらず海外へ渡航できるよう、経済的支援の抜本的な充実が求められる。
 - ・ 学部学生等...協定派遣や学位取得目的の海外留学に関する給付型奨学金の大幅拡充が必要。
- 大学院生：世界トップレベルの研究者等と切磋琢磨し、人的ネットワークの構築や「総合知」にも繋がる学びを支援。
 - ・ 1年以上の期間にわたるもの等、本格的な留学に対して給付型奨学金を特に重点的に支給すべき。
- 「トビタテ！留学JAPAN」をはじめとする民間企業・団体等からの支援は、引き続き継続・拡充が望ましい。

2. 優秀な外国人留学生の受入れ

【優秀な外国人留学生の呼び込み及び国内への定着促進】

<高等教育段階>

- 多様な国・地域から優秀な外国人留学生を受け入れることが重要。現状では、特定の国・地域からの比率が高く多様性確保という観点からは課題がある。
- 大学等が国際ゲートウェイとなって優秀な外国人留学生を受け入れ、卒業後に地域の中核となる企業や地方公共団体等において、その強みを活かしながら活躍する事例も見られており、今後、特に地方大学等における優秀な外国人留学生の受入れ及び地域への定着促進は益々重要となる。

<初等中等教育段階>

- 短期の交流を目的としたものが多いが、日本人児童生徒にとっても国際交流の機会となる。外国人留学生の受入れ体制や日本語指導体制の整備を支援してることが重要。
- 外国人研究者や企業で働く外国人にとっては、日本に家族を連れていきたいと思えることも大切であり、そのためにも子供の教育環境の整備が不可欠。

3. 大学等の国際化

【留学モビリティ拡大・大学等の国際化を支える環境・体制整備】

- 初等中等教育段階の国際交流について全国で取り組めるよう政府が集中的に支援すべき。
- 大学等において留年や休学することなく留学できる環境を実現することが急務。
- 国際的な交渉等を継続的に担う能力の高い専門職員の育成・確保を進めることが必要。
- 留学固有の特別な支援の提供に適正な対価を求めることは大学経営上必要なことであり、大学等は、外国人留学生の授業料の増額や手数料の徴収等により、持続的・安定的な学内国際体制の自律的構築に努めるべき。
- 留学が不利益にならない採用活動の展開等について、産学官が速やかな改善に取り組むべき。
- 大学等において、外国人留学生が魅力に感じる日本人学生との多文化共修の場や生活環境の充実が不可欠。
- 大学等が自ら、迅速な意思決定のためのプロセスの見直しと決定事項を具現化させるためのガバナンスの在り方について検討を行い、国際化を進めることに学長が強いリーダーシップを発揮することが必要。